

鼠径部ヘルニアの新 NCD (National Clinical Database)登録のお願い

2021 年 6 月

日本ヘルニア学会では、ヘルニア疾患の症例登録を行い、ヘルニア疾患の診療の質を改善させることを目的に、2016年に症例登録委員会を発足させました。そして、日本で症例登録を行うには NCD データを活用することが得策と考え、2017年に消化器外科データベース関連学会協議会に参加し、2018年から NCD における鼠径部ヘルニア手術のデータ抽出が可能となりました。その結果は、日本ヘルニア学会誌に報告しております ([資料 1](#))。2017年の鼠径部ヘルニア手術症例数は 110,252 例でした。しかし、現在の NCD における鼠径部ヘルニア手術のデータは、外科専門医の共通項目のみで、左右の区別、初発・再発の区別、詳細な手術術式 (Lichtenstein 法、Mesh-plug 法、TAPP、TEP など)、鼠径部ヘルニアの分類など、日本ヘルニア学会として把握したいデータが全くない状況です。

そこで、日本ヘルニア学会は消化器外科データベース関連学会協議会と協議を重ね、鼠径部ヘルニア手術について、新たに 4 つの入力項目を追加することになりました。追加 4 項目の詳細を[資料 2](#)に示します。この新たな症例登録 (以下、新 NCD 登録) は、登録をしていただける施設・診療科を日本ヘルニア学会から NCD 側に提出し、NCD 登録施設と紐付けすることによって開始されます。この新 NCD 登録は、すでに 2021 年 5 月 27 日に開始されております。

また、ご存じの通り、日本ヘルニア学会では、2006年版鼠径部ヘルニア分類 (JHS 分類) を考案し、現在、国内では、多くの学会員の皆さまに周知されております。しかし一方で、世界に目を向けますと、鼠径部ヘルニアの国際ガイドラインでは、European Hernia Society 分類 (EHS 分類) が鼠径部ヘルニアの分類として推奨されており、今や EHS 分類が世界標準の鼠径部ヘルニア分類となっております。日本ヘルニア学会としては、EHS 分類に準じて国際化に歩み寄ることが、今後の日本ヘルニア学会の発展に繋がっていくであろうと判断いたしました。新 NCD 登録では従来の鼠径部ヘルニア分類 (JHS 分類) を変更し、EHS 分類に準じた 2021 年版鼠径部ヘルニア分類 (新 JHS 分類) を採用します。

つきましては、現在、日本ヘルニア学会の会員となっている施設においては、積極的に鼠径部ヘルニアの新 NCD 登録の登録施設になって頂きたいと考えて

おります。また、日本ヘルニア学会の会員が不在の施設であっても、鼠径部ヘルニアの新 NCD 登録にご賛同頂ける施設では、登録施設になることが可能です。できる限り多くの施設・診療科で、この新 NCD 登録に参加して頂きたいと考えております。数年後には、鼠径部ヘルニア手術におけるより詳細なデータを蓄積して、鼠径部ヘルニア手術の質の改善に貢献していきたいと考えております。

今後、将来的にはロボット支援手術を開始する施設が増加すると推察されます。日本ヘルニア学会としましては、ロボット支援手術を現在すでに行っている施設と今後行っていくことを検討している施設には、必ず新 NCD 登録に参加していただきたいと考えています。

何卒、できる限り多数の施設から参加登録を、宜しくお願い申し上げます。

症例登録委員会 委員長 宮崎恭介
理事長 早川哲史